

土砂災害から考えること

宗像市立日の里中学校 2年 真島 穂佳

突然、家の中で携帯電話のJアラートが鳴り響いた。

この日は、大雨の予報もあり学校は休校だった。テレビでは大雨のニュースで避難指示も流れていた。私の地域もかなりの大雨が降って雷が鳴っていたが、大きな被害は無かった。しかし、その頃、久留米市では土石流が発生していた。土砂は広い範囲に流れ下って複数の住宅が巻き込まれ、10人が救助されたが、70代の男性1人が亡くなったようだ。

そのニュースを見て、一瞬にして多くの家屋が流され、風景が変わってしまったことに衝撃を受けた。

そこには砂防えん提という、上流から流れてくる土砂を受け止めるはたらきをする施設があったが、豪雨の影響で壊れてしまったようだ。

このニュースを見て、数年前の朝倉での豪雨被害のことを思い出した。

近年、豪雨により土砂災害が増加していると感じ、私たちが事前に取り組める備えについて考えた。

まず、家族で避難所と、そこに行くまでの道順を知っておくことが大切だと思った。災害時に近くに家族がいるとは限らないため、事前に家族と情報を共有しておくことで、危険が迫った時に迷うことなく行動でき、自分で自分の命を守ることに繋がると思う。自分の命を守ることは大切な事だが、土砂災害によって家が流されたり、多くの人が守ってきた景観が失われてしまう事も、とても悲しい事だと思う。

そこで、土砂災害自体を起こさないようにする方法がないのか調べた。

土砂災害の主な原因は、人工林の手入れが少なくなったこと、異常気象の影響であることが分かった。国内で使用される木材の8割が外国から輸入されたもので、国内の林業が衰退してしまい、水保全と土保全といった森林がもつ機能が低下してしまった。また、森林の土は雨水をよく染み込ませ、土砂災害が起こる危険性が低下するが、近年発生する線状降水帯などの異常気象は、雨量が増えると土が緩んで災害の危険性が高まるということが分かった。

夏休みに、サントリービール工場に見学に行った。そこでは水を一番大切にされていて、その綺麗な水を確保するには森を大切にしなければならないと言う話とともに、AとBの2種類の土を使って実験があった。

Aは枯葉のあるフカフカの土で、Bは木の生えていないベトベトの土と見立てて、それぞれに泥水を流して水がきれいになる過程を見た。Aの土に流した水は、地下を通って綺麗な天然水になったが、Bの水は土に染み込まれず横に流れて、土が崩れていった。

異常気象が起こる原因は私たちに関係のないように感じるが、今、世界中で問題となっている地球温暖化が原因で起こる。

地球温暖化により地球の平均温度が上がることで、農作物が育ちにくくなったり、台風や豪雨によって大きな被害が出たり、異常な高温が続いて山火事や干ばつが世界各地で起こっている。また、河川が決壊して橋や車などが流されたり、土砂崩れで家が埋まってしまったり、家屋が浸水するニュースが、報道されることも多くなったのではないかな。

そして、地球温暖化をさらに深刻化させているのは私たちである。私たちの生活の中で化石燃料を大量に燃焼したことで二酸化炭素が大幅に増えた。地球温暖化を防ぐためにエコバッグを使ったり、家電を省エネにしたり冷房の設定温度を適切にすることで土砂災害を防ぐことにも繋がる。

土砂災害から身を守るには、災害が起こった時にすぐ自分の身を守る行動をできるように準備しておくことも大事だが、こういった自然災害は、実は、私たちの何気ない普段の生活が原因で発生していることを痛感した。

これからは普段の自分の生活を見直し、地球温暖化を防ぐために、自分にできる身近なこと、エコバッグを持ち歩いたり、家電製品の使い方に気を付けて過ごしていきたい。

環境に配慮した様々な生活を私自身、また家族とともに心がけていきたいと思う。